

日本天文学会神田茂記念賞選考経過

選考委員長 広瀬秀雄

一昨年なくなられた本会特別会員神田茂氏の御遺族関係の方から、何か有益な事業のために、本会へ金20万円の寄附の申出があり、本会では、神田氏はその御生前に育成に尽力されたアマチュア天文家の功績顕著な方の表彰を行うのが、その御意志を生かす最良の方途であろうと決定した。その結果、弓理事長よりわたしに、この目的のための委員会委員の選定と、委員長として結論の報告を依頼すると伝達された。委員会は、長年にわたりアマチュアの方々と深い接触を持っておられる古在由秀、古畑正秋、宮本正太郎、村山定男の諸氏とわたしとで構成することにし、昨年12月19日に全委員出席の下に委員会を開催した。種々論議の結果、五味一明（変光星の観測）、佐伯恒夫（普及活動、火星の観測）、清水真一（天体写真）、関勉（彗星の発見）、中野繁（星図作製、普及活動）、野尻抱影（多数の著作による普及活動）、長谷川一郎（天文情報の交換、軌道計算）、本田実（彗星の発見、日本の彗星発見の今日の隆盛への発端）、藪保男（流星の写真観測及び流星の研究）の九氏を表彰候補者として推薦することを決定した。上文中、各氏の名の後に（ ）に入れて示したのは御功績の著しい分野として報告書に示した事項である。この日の論議により、委員会は尚多数の方々を表彰する必要を認めたので、この日とりまとめた報告書の末尾に、次のような一文を附記することにした：

なお委員全員の希望事項として、今回のような事業を今回だけに留めることなく、機会をとらえて今後も随時とり行われるよう配慮を御願したい、ということを表明致します。

これらの内容を持つ報告書は評議員会の容れるところとなり、本年春の総会で表彰式がとり行われた。

わたしたちの報告書に記されたこれら諸氏の御活躍分野名は、あまりにも簡潔に失するので、本誌誌面を借りて、もう少し詳しく諸氏の御活躍ぶりを述べておく、ただ誌面の制約のため、数行づつしか伝えられないことを残念に思う。

五味一明氏 諏訪市の方で、早くから変光星の観測に努力され、1936年にとかけ座新星を発見され、わが国の変光星観測隆盛の礎石ともいふべき方である。諏訪地方をアマチュア天文家の一大拠点にまで育成された努力の功績は大きい。

佐伯恒夫氏 長年大阪市立電気科学館天文部（プラネタリウム）に勤務され、天文知識の普及に尽力された方で、火星面について最も長い観測歴を持つ人の一人であ

る。その御研究成果の一部は、例えば新天文学講座第2巻などに発表されている。

清水真一氏 島田市在住のアマチュア天文家の大先輩で、天体写真の草分けというべき方である。富士フィルムが作っていた天体写真用乳剤は、最初清水氏の要求に応えるものとして作られたものに発する。終戦直後数百枚の写真原板を研究資料として東京天文台へ寄贈されたことがある。1939年にはダニエル彗星の写真による再発見により本会よりの表彰を受けられた。

関勉氏 高知市の方で、誰もが知る彗星の発見家として有名な方で、東亜天文学会彗星課長として、彗星観測に関する情報の提供に努力しておられる。彗星に関して数冊の著書を持たれ、彗星発見の現下の隆昌を開拓された。

中野繁氏 中津市在住のお医者さんで、立派な数々の星図の著者として有名な方である。また月面、星図観測などに関する著作も多い。

野尻正英（抱影）氏 多数の天文関係の著書によって多数の人に天文愛好心を植えつけた方として、申し上げる必要はなからう。今さら表彰はおかしいとの事が委員の中にもあったが、まげて御承知願うということにした。

長谷川一郎氏 奈良市在住の方で、東亜天文学会の柱石として、また情報交換の中心として活動されている。自身彗星の軌道計算に努力されるとともに、アマチュア天文家の中に多くの軌道計算家を育成された。

本田実氏 早くから専門的に彗星搜索を開始され、その発見された彗星は12箇に達し、この業績に刺戟された若い彗星搜索者を生むことになった。わが国が現在彗星発見国を世界に誇っている現況の発端を築いた人として、その功績は不滅である。倉敷市に住んでおられる。

藪保男氏 滋賀県近江八幡市に住んでおられ、今回の表彰者中の最年少の方にあたるが、流星の写真による観測研究歴は長い。東亜天文学会の柱石の一人として天文普及にも力を尽しておられる。主として東亜天文学会誌に研究成果を発表して来られたが、その成果をおまめになった著書による御教示を受ける機会がないことを常々残念に思っているのは、わたしばかりではあるまい。

以上で諸氏に対する短い紹介文は終わるが、伝えたいことの十分の一も書くことができず、却って失礼ではなかったかとも思っている。諸氏が今後とも活動を御続けになり、後進を刺戟誘導されんことを祈念してやまない。